

旅行報告書

会派名 新緑会

会派代表者 桑原 一知

平成27年8月10日

旅行者氏名	旅行者氏名
桑原 一知	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

- 1 期間 平成27年7月28日(火曜日)から
平成27年7月30日(木曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
千葉県鎌ヶ谷市	空き家バンク(庁内活用版)について
東京都足立区	老朽家屋解体工事助成について
東京都新宿区	無接道敷地の建替えの許可基準の見直しについて(老朽化建築物の建替え促進)

合同会派行政視察報告書

報告者 新緑会 桑原一知

1. 派遣者

(真志会) 高岡 利治 谷口 明弘

(蘇心会) 塩崎 達朗

(水進会) 小路 貴紀

(新緑会) 桑原 一知

2. 視察日時・視察先・視察項目

7月28日(火) 千葉県鎌ケ谷市「空き家バンク(庁内活用版)について」

7月29日(水) 東京都足立区「老朽家屋解体工事助成について」

東京都新宿区「無接道敷地の立て替えの許可基準の見直し
について(老朽化建築物の立替え推進)」

7月30日(木) 移動日

3. 視察の概要

◆ 7月28日(火) 千葉県鎌ケ谷市「空き家バンク(庁内活用版)について」の視察

鎌ケ谷市は千葉県の北西部に位置し、都心から25km 圏内にあります。このことから、首都圏近郊の住宅都市として今後も発展していくものと思います。また、緑と調和した落ちついた町並みでもあり、果樹や野菜の栽培も盛んで、特に梨は県内3位の生産地でもある。さて、研修内容の空き家バンク(庁内活用版)は空き家所有者へのアンケート調査で「公的機による借上制度」を希望する意見があったことから、空き家バンク制度(庁内活用版)を平成26年10月から実施されました。制度仕組みは、空き家の登録を創設(市広報や HP、公共施設へのチラシ配布など)し、空き家所有者から登録があったら、内容を庁内各課へ情報提供し、活用意向があれば担当課が所有者と協議し、まとまれば、賃貸借契約を結び、行政目的に活用という流れである。ただ現状は厳しく空き家バンク登録件数1件。各課と活用がまとまったケースは0件ということであり、今後は宅建業組合との連携、地方創生先行型交付金の活用などで進めていくとのことである。市の規模や立地などはまったく異なるが、空き家を活用するという「攻め」の施策は見習う必要があると感じた。

◆ 7月29日(水) 東京都足立区 「老朽家屋解体工事助成について」の視察

29日の視察先スタートは足立区です。まずは区役所の大きさにビックリ、東京23区の最北端に位地し総人口674,111人・総世帯数324,120世帯。鉄道網の発達や大規模集合住宅の開発、大学の誘致などが進んだことにより、他自治体から移り住む人が増え、人口はこの5年間で約9000人増加。このことから老朽家屋も増えてき地震による倒壊・崩落、台風や突風時の外壁等の崩落。また不法侵入等による治安の悪化、景観の悪化などあり条例化に進んだ。実際に通学路での外壁の崩落もあり、何か起こってからでは遅いという事で早めた経緯もある。

条例の流れは、調査・指導の後危険度を算出し、専門家などで構成される老朽家屋等審議会で対応及び措置を決定する。解体除去工事費は木造の場合工事費の1/2(上限 50万)※平成25年1月から平成28年3月まで9/10(上限 100万)非木造1/2(上限 100万)危険切迫時は所有者同意の上、緊急安全措置を実施し、経費は後日所有者に請求する。ただ課題もあり、建物の維持保全は所有者等の努力義務や解体後の生活困難者の支援などがある。水俣市では中山間地の空き家がほとんどであり、防災土の問題もあるが、空き家を利用し地域活性化につなげ、また住居として永住してもらう事がベストだと感じた。

◆ 7月29日(水) 東京都新宿区 「無接道敷地の立て替えの許可基準の見直しについて」
(老朽化建築物の立替え推進)

29日午後からの視察先は新宿区です。東京23区のほぼ中央に位置し面積は18.23km²、人口約33万人、人口密度は23区の中でも10位以内である。戦時中は東京大空襲により面積の9割を焼失し6700人の死傷者と22万人の被災者を生じてしまい、人口も約39万人から11万人と激減しましたが、「戦災地復興計画基本方針」が決定され、土地利用計画の策定、都市施設としての街路の整備、事業手法としての土地区画整理事業が大きな柱となり、「新宿副都心計画」に引き継がれ現在に至っています。今回の視察内容の無接道敷地の立て替えの許可基準の見直し(老朽化建築物の立替え推進)は、高度経済成長をしてきた新宿区だからこそその問題でもあるかと思う。また首都直下地震の発生が危惧される中、特に木造住宅密集地域で老朽化した建築物の立替えが進まないことから、許可基準を見直し新たな基準を平成27年4月から施行しました。建築物は敷地が道路に2m以上接していなければ建築できないことが法で規定され、規定にあてはまらない「無接道敷地」の場合は、立替えには区の許可が必要になります。住宅密集地域に多く見られる通路にのみ接する無接道敷地では、通路に接する敷地の権利者全員の承諾を前提に許可してきたが、現行の許可要件の一つである「通路幅を4mに拡幅すること」について角敷地の権利者にはメリットがなく、承諾を得られず立替えが進まなかった。今回通路のみ接する無接道敷地が3以下で、安全性が確保された場合は角敷地の権利者の承諾を不要としました。まだ施行して間もないので実績は今のところはないとの事。水俣市では中心部では魅力ある整備であると感じた。

旅行報告書

会派名 新緑会

会派代表者 桑原 一知

平成27年11月20日

旅行者氏名	旅行者氏名
桑原 一知	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

記

- 1 期間 自:平成27年11月16日(月曜日)
至:平成27年11月19日(木曜日) 3泊4日

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
富山県富山市	農業の6次産業化等について
富山県立イタイイタイ病資料館	イタイイタイ病資料館見学等
富山県氷見市	北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について
石川県七尾市(株スギヨ)	ご当地ヒーローによる食育等企業の社会貢献活動及び企業並びに地域のPR効果等について

合同会派行政視察報告書

報告者 新緑会 桑原一知

1 派遣者

(政進クラブ) 中村 幸治 田口 憲雄
(真志会) 高岡 利治 谷口 明弘
(自由民主党) 松本 和幸
(政風クラブ) 岩坂 雅文
(公明党) 牧下 恭之
(蘇心会) 塩崎 達朗
(水進会) 小路 貴紀
(新緑会) 桑原 一知

2 視察日時・視察先・視察項目

11月16日(月) 移動日
11月17日(火) 富山県富山市 「農業の6次産業化等について」
県立イタイイタイ病資料館 「イタイイタイ病資料館見学等」
11月18日(水) 富山県氷見市 「北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について」
石川県七尾市 (株)スギヨ 「ご当地ヒーローによる食育活動等について」
11月19日(木) 移動日

3 視察の概要

◆ 11月17日(火) 富山県富山市 「農業の6次産業化等について」の視察

富山市は海拔0mの富山湾から標高2,986mの水晶岳までの自然豊かな多様な地形です。平成17年4月1日に1市4町2村で新設合併し新しい富山市が誕生し現在人口は418,979人です。特性として3点挙げられました。今後人口減少と高齢化に陥ること、自動車保有台数が全国2位と過度に依存していること、強い戸建て志向で市街地が外延的に拡大していること、このことから車を自由に使えない人にとって極めて暮らしにくい街が形成され、ごみ収集や除雪等にかかる都市管理コストの上昇や中心市街地の衰退が懸念されており、今後は持続可能な都市経営・まちづくりが必要という事でした。めざす都市像として、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり。これを実現するために公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住促進、中心市街地の活性化を柱にされています。さて今回の視察の「農業の6次産業化等について」ですが、富山市は米づくりが主体で、水田に特化した農業形態になっています。また本市と同様、農家数の減少や耕作放棄地の拡大、高齢化の進展と担い手の不足が挙げられます。この課題の対応として、担い手の育成と確保や耕作放棄地の再生、活用そして新たな特産物の栽培と6次産業の推進です。この6次産業の推進のひとつが「とやまとれたてネットワーク事業」です。一体的な地産地消の推進を目標にされています。地産地消の情報提供、生産者と消費者の交流活動、観光施設・外食産業における取組みなどで効果としては、生産者と消費者の信頼関係が構築、「食」や「環境」についての理解が深まった等が挙げられました。概要としては、販売や交流、観光スポットとして、総本店(地産地消推進拠点)と地

域店(PR拠点)、加盟店(地産地消販売拠点)を設置。地場もん屋というネーミングで開店しています。平成26年度は年間売上約2億円、来店者数は年間約25万人で順調に推移しているとの事です。また農家が行う6次産業として、米粉パン、いもまんじゅう、シフォンケーキ、フルーツジャム、柿酢ソース、漬物などの加工品を販売しています。この他に牛岳温泉熱を活用した「エゴマ」の生産、加工、流通、販売までを行う6次産業化を推進し、地域の特産品化や雇用創出を図られている。今後は「エゴマ6次産業化推進グループ」を設立し、植物工場を拠点に地域をあげて推進することやイタリアの食科学大学と協力協定を締結しエゴマ油とオリーブ油を最適配合したヘルシーオイルを開発すべく、日伊共同研究を開始する。本市と環境が類似している所もあり、アイデアや地域と行政、企業の協力などで実用できる事業ではないかと思った。

◆ 11月17日(火) 県立イタイイタイ病資料館 「イタイイタイ病資料館見学等」の視察

続いては、「県立イタイイタイ病資料館」の視察です。その前に時間があつたので、富山県広域消防防災センターの体験見学に行きました。地震体験や煙体験、強風体験など機械で再現できました。非常に充実した防災センターで隣接には消防学校もあり災害に対する意識が高いことを実感しました。さてイタイイタイ病資料館ですが、1階の展示コーナーでは年表でイタイイタイ病の歴史をふり振り返りながら、当時の暮らし風景や患者と家族の苦しみをたどりながら、原因究明と原因企業と取決めに至る歴史を紹介してあります。大正時代頃から神岡鉱山(岐阜県飛騨市)から排出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、農地に実った米などを通じて体内に入ることによって引き起こされました。語り部の高木良信氏のお話を聞きました。母親の発症から、家族の苦悩やお母様の苦しさを実体験によるお話で改めて、公害病は起こしてはならないと感じました。本市も水俣病で問題が多くあります。ただ、本市との違いはパンフレットの中に「汚染された環境については、被害の克服に向けた長年にわたる努力によって、今では美しい水と大地がよみがえっています。イタイイタイ病資料館は、子どもたちをはじめ、幅広い年代の人々が、(1)イタイイタイ病の恐ろしさを知り、(2)克服の歴史を学び、(3)県民一人ひとりが環境と健康を大切にするライフスタイルの確立や地域づくりに取り組むことにつなげる未来指向型の資料館をめざします」と記載されています。水俣市も見習う点が多くあり、早く問題を解決し市民が前を向き、子どもたちが誇れる街にする事を改めて思いました。

◆ 11月18日(水) 富山県氷見市 「北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について」

3日目は氷見市です。まず驚いたのが、建物が体育館です。実は高校の体育館をリノベーションした市庁舎です。全国初の試みで、これからの公共施設のあり方の新たな提案だと思いました。現在この新市庁舎の視察が一番多いそうです。さて氷見市での視察は「北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について」です。人口50,303人で主な産業は農業と漁業で水俣市に似ています。米の生産では一部がかけぼしをされているそうです。その他にハトムギ生産が多いそうです。その他に有名なのが氷見牛で、コロッケやカレーなどにも加工され販売されています。漁業では「ひみ寒ぶり」がブランド化されており、1本1本販売証明書が発行され出荷されています。さて北陸新幹線が平成27年3月14日に開業し現在東京から富山間は2時間8分と便利になり氷見市まではバスやJRで訪れる事が出来るが、JRは乗り換えが必要で交通アクセスが便利とは言えないとのこと、現在は新高岡から氷見までの定期観光バスへの運行支援やレンタ

カー会社とのタイアップキャンペーンを行っている。これは氷見観光周遊推進事業や自動車利用客を呼び込むための対策事業として136万円が助成されています。また氷見市の観光プロモーションムービーがなかったことから、氷見の暮らしの物語ムービーの作成を検討されており、当初予算は350万円です。またビジネスホテルが少なく民宿・旅館がほとんどで、外見写真や女将のおもてなし、お宿自慢の料理などの紹介も考えられていました。また外国人も多く WI-FI 整備も進める予定だそうです。感じたのは、補助金だけに頼るのではなく、当事者のアイデアや努力が必要であることを改めて感じました。

◆ 11月18日(水) 石川県七尾市 (株)スギヨ 「ご当地ヒーローによる食育活動等について」

次に(株)スギヨの視察ですが、少し時間が空いたので、氷見市潮風ギャラリーの見学に伺いました。実は、藤子不二雄A氏の出身地であり、商店街のあちこちに藤子不二雄A氏作品のキャラクターたちの銅像が置いてあります。このギャラリーは元銀行の支店で改装しギャラリーに使われています。

なつかしいアニメ・漫画など貴重な原画が展示されており、館長さんの案内で見学をさせていただきました。さて視察の(株)スギヨ「ご当地ヒーローによる食育活動について」です。設立は昭和37年1月、従業員数650名。魚肉ねり製品製造販売や惣菜、冷凍魚販売など食品の冷凍冷蔵業の企業です。まず話されたのが、農業経営基盤促進法が改正され、企業の農業参入が緩和されたことで、平成19年より石川県第一号で農業事業に参入されたそうです。決断された背景には1. フードマイレージを減らし、環境への負荷を低減し地産地消を推進する。2. 「海=水産加工品」と「大地=農作物」、その双方の恵みを融合させた、新商品・新事業を創造する。3. 一次産業から三次産業まで統合した新しい企業の運営形態を創造する。自社農園は能登島にあり、耕作放棄地など約20haの土地を地元農家から借り受け、野菜の栽培をはじめています。収穫した野菜は、自社製品の練り物や揚げ物に使用し、一部は地元スーパーやレストラン、学校給食用に販売しています。また土づくりからはじまる食づくりをモットーに日々挑戦されています。また地域貢献として、地元雇用の創出や農業体験など多岐にわたり活動しておられ、その貢献の一つが食育活動です。ご当地ヒーローとしてスギヨ仮面が誕生しました。食べ物の大切さを知ってもらうため、2011年から食育活動を開始、子どもたちに好き嫌いをさせる悪い怪人「イヤヤダー」を好き嫌いをなくすために戦うヒーロー「スギヨ仮面」がやっつけるという内容です。

認知度アップのためにグッズ展開、アサヒ飲料「ご当地ヒーローダブルシールコレクション」キャンペーンに参加された。主な活動は、工場見学が年間3,000名の児童受け入れや小学校・保育園の訪問、この他に地域のイベントや百貨店にも呼ばれるそうです。現地ではショーはもちろん食育紙芝居の実施や食育冊子の配布などされています。その結果、「給食の食べ残しが減った」「苦手な食べ物にチャレンジする子どもが増えた」など効果があるそうです。社内貢献として新入社員研修に食育活動を取り入れた結果、定着率の増加や子供たちからのお礼の手紙を社内ラウンジに掲示したことで、社員の癒しにもなり、モチベーションもアップしたとの事でした。今後の目標はさらなる認知度のアップとより小さな子供たちの為に、歌や体操も組み合わせ取り組みたいとの事でした。感じたことは、企業としての地域貢献をまっとうしながら収益を上げるという理想的な形態だと思いました。地元企業として市民から信頼され多岐にわたる貢献には感心するばかりでした。そして行政だけに頼るのではなく、企業が努力し考えるという事が大事ではないかと実感しました。

旅行報告書

会派名 新緑会

会派代表者 桑原 一知

平成28年2月15日

旅行者氏名	旅行者氏名
桑原 一知	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

- 1 期間 平成28年2月9日(火曜日)から
平成28年2月9日(火曜日)まで

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
福岡県福岡市	自治体向けタブレット端末ICT推進セミナー 「ICT推進から始まる自治体イノベーション」

合同会派行政視察報告書

報告者 新緑会 桑原一知

1 派遣者

(真志会) 高岡 利治 谷口 明弘
(蘇心会) 塩崎 達朗
(水進会) 小路 貴紀
(新緑会) 桑原 一知

2 視察日時・視察先・視察項目

2月9日(火)福岡 博多祇園センタープレス10F 「自治体向けICT推進セミナー」

3 視察の概要

◆ 2月9日(火)「自治体向けICT推進セミナー」の参加について

タブレット導入自治体は年度ごとに増えており、全国的にもICT・タブレット活用の気運が高まっている状況です。

セミナーではまず、根本昌彦氏(神奈川県知事補佐)の神奈川県でのICTを軸とした「スマート計画」のビジョンや導入に至るまでの経緯、評価、改善と今後の方向性の話がありました。

県庁の話で、水俣市とは規模などは違いますが、目的などの今後の方向性の構築という意味では参考になりました。

目的は、リアルタイムな情報の共有、紙ベースでの経費削減、通信料の削減など何にどの位の経費がかかっているかを確認するのが、まず必要だと感じました。

実際にタブレットを使いペーパーレス議会システム「Side Books」を操作しながら感じたのが、今渡されている、膨大な紙ベースでの書類が、このタブレット1台に入ると便利だと率直に感じました。

紙の節約や、印刷代の節約、書類を綴じる作業などの人件費など、経費削減になると思いました。

また、使用するアプリ「Side Books」は本棚をイメージされており、ページの捲りも実際に捲るような感覚で作られており、違和感がないように思いました。実際に導入を進めるには今後、導入している議会を視察するなど、生の声を聞きたいと感じましたし、水俣市も導入検討に動くべきと感じました。

以上